



2010 年：新しいチョイスになるか？

— 3 プログラムの紹介とその帰国・海外生へのメリット —

INFOE（海外子女教育情報センター） 代表

松本 輝彦

2010 年、皆さんに注目していただきたい海外・帰国生の教育プログラムを 3 つ紹介します。これらのプログラムは、近年の海外・帰国生の教育のニーズの変化に対応して、生まれてきたものです。それぞれのプログラムの、子ども達・保護者へのメリットと意義も簡単に述べてみます。

国際バカロレア

国際バカロレアの教育を提供する日本の普通の学校が増えました。帰国後の教育のチョイスのひとつになります。

国際バカロレアの教育プログラム (IB) は、文化や人種の異なる多様な子ども達がともに学ぶ、世界中のインターナショナル・スクールの共通カリキュラムとして開発されてきました。「国際教育」を目指すそのプログラムは、世界のグローバル化とともに、近年急速に全世界で広がりを見せています。現在、138 カ国 2815 校でおよそ 80 万人の子どもが学んでいます。日本の 14 のインターナショナル・スクールでも IB プログラムが提供されています。

最近、日本の中学・高校で、IB を導入する学校が増えました。下の表は、国際バカロレア機構から認定された日本の学校 (IB World School と呼ばれる) のリストです。この他に、認定を目指してプログラム導入中の候補校があります。

日本の国際バカロレア 認定校				
学校	所在地	認可年月日	MYP	DP
加藤学園暁秀中学・高校	静岡県沼津市	2000 年 1 月	○	○
玉川学園 K-12	東京都町田市	2009 年 3 月	○	予定
AICJ 中学・高校	広島市	2009 年 6 月	--	○
立命館宇治中学・高校	京都府宇治市	2009 年 9 月	--	○

プログラム MYP: Middle Years Programme, DP: The Diploma Programme
出典: www.ibo.org (2010 年 1 月 1 日現在)

ディプロマ・プログラムの広がり

IB の中のディプロマ・プログラム (DP) は、高校の最後の 2 年間で、所定の学習内容のクラスを受講し、認定試験を受験します。その試験で基準以上の成績を修めると IB 卒業資格 (IB Diploma) が取得できます。世界の主要な大学がこの資格を高く評価し、積極的に新入生として受け入れます。

上の表の学校で、日本の高校卒業資格と併せて DP 卒業資格を取得すると、世界中の大学に有利な条件で出願できることになります。グローバル化社会での「国際教育」を目指す学校が積極的に導入を図るのは、よく理解できます。

帰国後のバイリンガル教育のために

一般に、IB は英語のみで授業を行う、と思われています。

しかし、DP をすでに実施している加藤学園の IB カリキュラムを詳細に見ると、授業の 75% が英語、25% が日本語で教えられています。これは、DP のカリキュラムの中に生徒の第一言語で学び受験する科目が取り入れられているからです。世界中の子ども達自身の文化を大切にしながら「国際教育」を行うという、IB の精神を反映しているのです。

別の立場から見ると、日本の学校における IB はバイリンガル教育を行っている、とも言えます。その割合も週 5 日現地校で英語・土曜日補習校で日本語と、北米の子ども達の学習環境に近い言語の割合で授業が構成されています。また、学習内容も、文部科学省が定めた学習指導要領に準拠する必要を考慮した IB の授業内容になっています。

7 年生から 10 年生を対象にしたミドル・イヤーズ・プログラム (MYP) の場合は、日本語の割合がより大きく、指導内容もより日本の学校での内容に近くなっており、バランスの取れたバイリンガル教育のカリキュラムとなっています。

「日本に帰ったのだから日本語と日本語での学力をしっかりと伸ばさないといけない。」「苦勞して海外で身につけた英語や学力を将来役立つレベルまで伸ばしてやりたい。」日本に帰国した保護者の大半は、この二つの思いを抱き、わが子の学校を探し、教育のチョイスを追い求めます。その結果が、「英語に力を入れる学校」「イマージョン教育校」「英語力保持のための教室」「インターナショナル・スクール」の選択となります。

しかし、それらの学校・教室では、日英両語でのバランスの取れた教育は望めません。その結果、帰国後 2・3 年すると「英語が消えた」ということになってしまいます。

帰国後のバランスの取れたバイリンガル教育を提供する学校として、IB を持つ日本の中学校・高校が、お子さんの学校選びのひとつのチョイスになると思われませんか？